

活動レポート

北方海域技術研究委員会

文責：北方海域技術研究委員会 幹事長 松本英明

平成 30 年度定例会の報告

1. はじめに

北方海域技術研究委員会では 2018 年(平成 30 年)10 月 5 日(金)、道東・釧路市にて北海道開発局 釧路開発建設部の後援のもと「平成 30 年度 定例会」を開催しました。本年は 62 名(うち技術士 21 名、日本技術士会会員 14 名、北海道本部会友 7 名)の参加を得ることができました。本定例会は現地視察と講演会の二部構成で実施し、現地視察では釧路港の海上視察および港資料館見学を、講演会では開催地とゆかりの深いご講演 3 題の内容にて開催しました。

以下に本定例会の内容をご報告します。

2. 現地視察

現地視察は約 30 人の参加者に恵まれ、2 班に分かれ釧路港の海上視察と港資料館見学を行いました。

海上視察は、港湾業務艇「たんちょう」に乗船し、バルク船大型化に対応するため新たに整備された水深-14m 岸壁など、釧路港西港区全体の海上視察を行いました。船上では北海道開発局 釧路開発建設部 釧路港湾事務所の飯田所長より、各埠頭の役割や主要な取扱貨物について説明を受けました。

資料館見学では釧路港湾事務所の大西様、青野様らのご案内を頂きながら、骨材試験用のフルイ、作業船や釧路港築港の歴史的史料や管内漁港・空港の整備に関する資料を視察しました。

3. 講演会

講演会は、釧路市生涯学習センター(まなぼっと幣舞)にて行いました。

当研究委員会の寺島代表により北方海域技術研究

委員会および定例会の趣旨説明が行われると、北海道開発局 釧路開発建設部 釧路港湾事務所の飯田誠氏による開会挨拶を皮切りに講演会が始まりました。

その後、当研究委員会の吉野幹事の司会により、ご講演 3 件の内容にて開催しました。

4. 講演 1

北海道開発局 釧路開発建設部 釧路港湾事務所の早川 篤 課長を講師としてお招きし『釧路港における国際バルク戦略港湾としての整備について』と題してご講演頂きました。



写真-1 早川 篤 講師

ご講演は、過去に「スーパーバルク」と呼ばれていた時代からの港湾政策の経緯や、釧路港の国際物流拠点としての優位性、水深-14m 岸壁の耐久性向上のための構造上の工夫や各部材の塩害対策について説明されました。最後に供用開始が近づく国際物流ターミナルの整備状況について写真を交えて纏められました。

質疑応答では、水深-14m 岸壁の塩害対策に関する経済性や選定の考え方、また様々な規模の貨物

船が係留する際の連絡橋の係留系に関する課題など熱心な議論が行われました。

4. 講演 2

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 北海道区水産研究所の境 磨 グループ長を講師としてお招きし『国際的な水産資源評価・資源管理』と題してご講演頂きました。



写真-2 境 磨 講師

ご講演では、まず国際的な資源評価・管理をおこなう地域漁業管理機関 RFMO の概略と、漁業資源のデータを収集し、資源評価・管理を行うまでの実際の手順を説明されました。そして「見えないデータ」である漁業資源の推定の考え方や、資源管理で重要な MSY (最大持続生産量) の概要、資源量・漁獲状況を把握するための神戸プロットについて説明されました。講演後半では適切な資源利用に向けた漁獲戦略の枠組みや、国連海洋法条約に基づく管理の考え方、最後に「水産政策の改革」として目標管理基準の設定に向かう日本の現状について説明されました。

質疑応答では、資源管理の地域への波及効果や、資源評価の目標値となる数値の妥当性などについて専門的な議論が行われました。

4. 講演 3

北海道立総合研究機構 釧路水産試験場の近田靖子主査を講師としてお招きし『道東海域におけるアサリ漁業への取り組みについて』と題してご講演頂きました。

ご講演は、全国的なアサリ漁獲量の減少傾向と、その中での北海道産アサリ、とりわけ釧路・根室管内産アサリのシェアの変動から説明されました。



写真-3 近田 靖子 講師

次いでアサリの生活史や生産動向、資源管理の動向と、取組事例として根室湾中部漁協のアサリ漁場の課題が説明されました。そして天然採苗による稚貝回収の考え方と、効率的な採苗に向けた天然採苗試験の概要、採苗した稚貝の放流技術の開発状況についてご講演されました。

質疑応答では、道内他地区で行われるアサリ資源の養殖に向けた展開について質問があり、労力に見合う採算性・ブランド化の必要性など実現上の課題について回答されました。

5. おわりに

本定例会は、現地視察と座学を通じて釧路港の歴史と将来に向けた整備について学ぶと共に、今後の水産に大きく影響する国際的な水産資源評価・資源管理の考え方、また実海域におけるアサリ資源増大への取組について知見を深める事が出来ました。

北方海域は気候変動への対応など様々な課題を抱えていますが、本定例会は改めて現場から学び、視野を広げる有益な機会となりました。講演会終了後も 40 名弱の参加者が意見交歓会に出席し、互いに親睦を深めることができました。

最後にご多忙中、快くご講演をお引き受け頂いた各講師と、現地視察など企画全体を通じて全面的にご協力いただいた北海道開発局 釧路開発建設部 釧路港湾事務所の皆様に心から御礼申し上げます。